

日本語母語学習者による中国語の結果補語の習得と母語の影響 —学習者コーパスに基づく分析—

張 正

Acquisition of Chinese Resultative Complements by Japanese Native Speakers and the Influence of Native Language - A Learner Corpus Based Analysis

ZHANG Zheng

Abstract

The objective of this paper is to examine the acquisition of Chinese 'verb-complement' compound verbs through comparison with Japanese compound verbs. Compound verbs occupy an important position in both the Japanese and Chinese lexicon and are highly productive. However, Japanese learners of Chinese show notable nonuse of compound verbs in their production. This phenomenon correlates with the nonuse of compound verbs by Chinese learners of Japanese. It is difficult for Japanese learners to acquire Chinese compound verbs, and likewise difficult for Chinese learners to acquire Japanese compound verbs.

We compare the characteristics of Japanese compound verbs with those of Chinese compound verbs, from the perspectives of the correlation between syntactic and lexical structure, and historical change, to find the differences in word formation. Because of the differences in word formation, it is hard for Japanese learners of Chinese to acquire Chinese compound verbs.

目次

- | | |
|---|---|
| 1. はじめに | 3.1. 日本語母語話者による中国語結果補語の誤用の分析 |
| 2. 日本語と英語母語話者による中国語学習者作文コーパスの比較 | 3.2. 中国語の結果補語・日本語のアスペクト複合動詞の相違と統語構造の相関性 |
| 3. 日本語母語話者中国語学習者にみられる中国語の結果補語の過少使用とその要因 | 4. おわりに |



1. はじめに

日本語母語話者が中国語文法を習得する際、習得困難な文法項目の一つとして、結果補語が挙げられる。本稿では、筆者がチームリーダーとなって作成した中国語学習者作文コーパスにおける結果補語の習得状況について調査し、英語母語話者と対照して、母語の文法体系がどのように、結果補語の習得に影響を及ぼすのかを考察する。

まず、本稿で分析対象とする、誤用タグ付き中国語・日本語学習者コーパスについて、公開されているもの、(1)「日本語・英語・中国語学習者コーパス・誤用検索」システム及び、(1)の構成部分である(2)「日本語母語話者中国語学習者コーパス」を以下に紹介する。

- (1) 東京外国語大学国際日本研究センター「日本語・英語・中国語学習者コーパス・誤用検索」システム

<http://ngc2068.tufs.ac.jp/corpus/>

- (2) 東京外国語大学国際日本研究センター「日本語母語話者中国語学習者コーパス」

http://ngc2068.tufs.ac.jp/corpus_ch/

本稿では、(2)の東京外国語大学「日本語母語話者中国語学習者作文コーパス及び誤用辞典」(以下、JCコーパスと呼ぶ)及び、台湾師範大学から提供された未公開の「英語母語話者中国語学習者作文コーパス」(以下、ECコーパスと呼ぶ)の2種類の学習者作文コーパスから抽出されたデータを用いる。母集団特徴及びデータの規模については、JCコーパスは、東京外国語大学で中国語を専攻とする日本語母語話者3、4年生165名(平均CEFRレベルB1及びB2レベル)が、2013年度及び2014年度に、授業の一環として授業外に執筆した課題としての中国語作文データで、425作文、109,143語(延べ語数)からなるものである。ECコーパスは、非公開ではあるが、筆者の研究チームが収集し誤用タグをつけている英語母語中国語学習

者コーパスで、台湾中国語検定試験「華語文能力測驗(TOCFL)」のB1レベルに応募した、英語を母語とする試験応募者344名、344作文、80,736語(延べ語数)から構成されている。

まず、JCコーパスから結果補語が脱落している誤用例を挙げる。以下、「< >」(突起括弧)で誤用の部分を示す。「_」(下線)で結果補語の部分を示す。「()」(括弧)にある情報は、コーパスにおける学習者作文の番号及び学習歴である。また、中国語例文に対応する日本語訳は日本語母語話者が翻訳したものである。

- (3) 你们能体验把鲜鱼<誤: 做→正: 做成>鱼糕。

(2014_118_TUFS_CH_053 学習歴5年)

皆さんは、鮮魚をかまぼこにする経験をすることができます。

- (4) 如果你住在城市的话, 你会比较容易<誤: 找→正: 找到>工作。

(2013_068_TUFS_CH_077 学習歴5年)

都市に住めば、仕事がすぐ見つかる。

- (5) 如果买杯面的话, <誤: 吃→正: 吃完>后我们可以扔掉容器。

(2013_130_TUFS_CH_086 学習歴3年)

カップ麺を買えば、食べ終わったら容器を捨てればいい。

- (6) 一个菜<誤: 做→正: 做好>了以后, 把菜一个一个分开, 自己吃自己的。

(2013_126_TUFS_CH_056 学習歴3年)

料理が出来上がったら、料理を一皿ずつに分けて、各自自分の料理を食べる。

このように、JCコーパスでは結果補語の脱落現象が見られる。一方で、ECコーパスにおいては、結果補語については、脱落現象がみられず、以下のように過剰使用による誤用がみられ、JCコーパスとは、対照的である。

- (7) 又覺得單身研究所生的日子太孤單了，我就可以去她家，<誤：感受到→正：感受> 她溫暖的友情。

(E-B1-0033)

一人で研究生活を送る日々は、とても孤独だけれども、私は彼女の家に行けば、彼女の暖かい友情を感じることができる。

- (8) 現在，我去特別有名的大學是為了<誤：當成→正：當> 醫生。

(E-B1-0034)

今、私が有名な大学に行くのは、医師になるためである。

このように、結果補語の使用状況は、母語が日本語か英語かによって、対照的であるが、この対比は、どのような要因によるものだろうか。本稿では、まず、第2節で、上記のような「日本語母語話者による結果補語の非用」と「英語母語話者による結果補語の多用」という対照的な現象を提示する、コーパス統計データを提示する。第3節で、日本語における、中国語結果補語に相当する「アスペクト複合動詞」(影山(2013: 7-14))と結果補語を対比することによって、誤用の要因を探る。

2. 日本語 vs. 英語母語話者による中国語学習者作文コーパス

中国語学習者向けの「中国語動詞補語用法オンライン辞書」では、中国語における「動詞+補語(結果補語、方向補語、可能補語、程度補語、介詞補語)」²⁾となる複合動詞を25,910語扱っている。そのうち、「動詞+結果補語」複合動詞は12,101語があり、複合動詞の全体の48.04%を占めている。また、呂(1999: 60)では、中国語母語話者の補語の使用頻度においては、結果補語は2位を占めていると指摘している。結果補語は、中国語文法において、生産性も使用頻度も高く、重要な位置を占めていることがわかる。

では、JC及びECコーパスにおいて、中国語学習者の結果補語の習得状況はどのような状況であろうか。また、中国語母語話者と比較して、その使用状況

はどのような状況であろうか。この疑問に答えるために、まず、「中国語動詞補語用法オンライン辞書」より、結合する前項動詞の数が多い、上位10位の単音節結果補語を取り上げよう。JC及びECコーパスと中国語母語話者均衡コーパスにおいて、上位10位の単音節結果補語の出現頻度を調査し、比較する。以下、表1に、本稿の調査対象とする結果補語を挙げる。今回の調査では、単音節結果補語のみに焦点を当てる。二音節およびそれ以上の音節の結果補語は使用比率が低いいため、今回の研究対象とはしない。

【表1】「中国語動詞補語用法オンライン辞書」における単音節結果補語 上位10位

順位	結果補語	語項目数	順位	結果補語	語項目数
1	～到	1,009	6	～錯	315
2	～成	979	7	～开	302
3	～完	807	8	～住	276
4	～好	745	9	～坏	212
5	～掉	383	10	～满	192

(「中国語動詞補語用法オンライン辞書」より)

次に、JCコーパス、ECコーパスおよび中国語母語話者均衡コーパス「現代汉语语料库检索」³⁾を利用し、上記の結果補語を日英母語話者中国語学習者作文コーパスにおける産出頻度と、中国語母語話者による産出頻度を100,000語当たりの調整頻度で比較してみると、表2のような結果が得られる。(表記上の便宜のため、表2の中では「日本語母語話者中国語学習者作文コーパス」は「日本語母語話者」、「英語母語話者中国語学習者作文コーパス」は「英語母語話者」、「中国語母語話者均衡コーパス」は「中国語母語話者」とする。)

表2から、日本語母語学習者は中国人母語話者と比べ、結果補語の産出が全体的に低いことがわかる。例えば、結果補語「～到」についてみると、100,000語当たりの調整頻度で、中国人母語話者による3,339例の使用頻度に対して、日本語母語話者は394例しか産出されない。さらに、英語母語話者による524例の産出と比べ、日本語母語話者の産出頻度が有意に低いと

【表 2】学習者コーパスにおける結果補語の産出頻度（中国語母語話者との比較）

	日本語母語話者	中国語母語話者	検定 ⁴	英語母語話者	中国語母語話者	検定 ⁵
結果補語	調整頻度（100,000 語当たり）		p 値	調整頻度（100,000 語当たり）		p 値
～到	393.98	3338.78	<.0001	523.93	3338.78	<.0001
～成	58.64	260.35	<.0001	53.26	260.35	<.0001
～完	18.32	15.60	0.4736	82.99	15.60	<.0001
～好	15.58	24.84	0.0531	63.17	24.84	<.0001
～掉	5.50	14.74	0.0121	9.91	14.74	0.2597
～錯	10.99	15.04	0.2779	7.43	15.04	0.0786
～开	1.83	13.85	0.0007	1.24	13.85	0.0023
～住	13.74	17.59	0.3408	8.67	17.59	0.0566
～坏	3.66	27.64	<.0001	2.48	27.64	<.0001
～满	4.58	25.12	<.0001	7.43	25.12	<.0001

（コーパスの規模に関しては、日本語母語話者学習者コーパス：109,143 語、英語母語話者学習者コーパス：80,736 語、中国語均衡コーパス：8,643,278 語）

いえる。

上記で紹介したように、日本語母語話者のデータは、東京外国語大学で中国語を専攻とする 3、4 年生の上級学習者データであり、その中には、中国語専攻に入る前にすでに中国語の学習歴がある学生もいる⁶。しかし、依然として結果補語の脱落による誤用が起こる。結果補語の脱落は、日本語母語話者にとって、上級あるいはそれ以上のレベルになっても、克服が困難な誤用であろう。一方で、EC コーパスでは、英語母語話者による、「～完」、「～好」などの産出頻度は中国語母語話者よりも高く、日本語母語話者による非用とは対比的な現象となり、興味深い。

二種類の JC コーパス・EC コーパスは、叙述内容・文体・学習者レベルで厳密なコントロールがなされていないが、それでもやはり、日本語母語話者による結果補語の非用と英語母語話者による多用という傾向が観察される。

3. 日本語母語話者中国語学習者にみられる中国語の結果補語の過少使用

複合動詞は、日本語の語彙においては、非常に豊富

な体系をもっている。その中、中国語の結果補語に相当するアスペクト複合動詞も存在しており、しかも、生産性が高く、重要な位置を占め、外国語との対照においても稀な存在であると言われている（影山（2013: 44））。

にもかかわらず、日本語母語話者中国語学習者による産出において、結果補語の非用が顕著である。望月（2018）によれば、中国語を母語とする日本語学習者による産出においては、アスペクト複合動詞を含め、複合動詞全体の非用が卓越しているという現象が観察されている。日本語母語中国語学習者、中国語母語日本語学習者の両者にとって、両言語の複合動詞は相互に習得が難しいのである。こうした中国語の結果補語・日本語の複合動詞の非用が起こされる要因は、両言語における、結果補語、複合動詞といった複雑述語の語形成に相違があることにあると考えられる。

3.1. 日本語母語話者による中国語結果補語の誤用の分析

湯（1991）では、中国語の結果補語（述補式複合動詞 verb-complement compound verb）を、その内部構造

と外部機能から、「述補式使動及物複合動詞」、「述補式及物複合動詞」、「述補式兼語及物動詞」に分類されている。本稿は、日本語母語話者による結果補語の非用に注目し、動詞の後ろにある結果補語のV2の意味・機能により以下のように分類を行う。日本語母語話者による非用の要因は、まず分類から分析を試みる。

(9) 結果補語の分類

a. 補語V2がアスペクトの意味を表すもの

- ① 補語の語彙の意味が希薄化したもの
～到、～掉、～住
複合動詞のLCS構造：e1 [BECOME [e1 BE AT -z]] (z=V2が表す結果状態)
- ② 補語の文法化が進んだもの
～成、～完、～开
複合動詞のLCS構造：e1 [BECOME [e1 BE AT -z]] (z=Asp)
- ③ 補語が形容詞で、評価を表すもの
～好、～坏
複合動詞のLCS構造：e1 [BECOME [e1 BE AT -z]] (z=V2が表す結果状態に対する評価)

b. 補語V2が語彙的な意味を持つ、具体的な結果状態を表す

- ① 補語が外的力による変化を表すもの
～错、～満
複合動詞のLCS構造：複合動詞のLCS構造：[x ACT y] CAUSE [BECOME [y BE AT -z]]
- ② 補語が内的力による変化を表すもの
～饱、～病、～哭/笑、～醉 など
複合動詞のLCS構造：[x ACT] CAUSE [BECOME [x BE AT -z]]

(9a)の類は、アスペクトを表すものである。これらのものは、元来、本動詞として自立語であったものと想定されるが、補語として複合動詞に組み込まれると、補助的な動詞となり、L-aspect という機能的な役

割になる、この現象は認知言語学の研究では文法化(grammaticalization)と呼ばれる変化過程の一つと捉える。

(9a①)の「～到」、「～掉」、「～住」などは文法化変化の段階においては、意味の希薄化(semantic bleaching) (Heine and Kuteva(2002:2))を経て、アスペクト的機能を担うようになっているが、元の語彙の意味をある程度保っており、前項動詞と結合する際に補語にある意味情報により意味制限がかかる。

例えば、「～到」には元々移動動詞である「到」の「到着」の意味がまだ存在しており、状態動詞とは共起しない。こういったも結果補語は、学習者にとって、アスペクト的機能を理解する必要がある他に、補語の元動詞の意味や、前項動詞と共起する規則などを理解する必要がある。この類の結果補語は、学習者の習得において最も困難なものであると推測される。表2に挙げたこの類に属する結果補語の日本語母語話者による出現の調整頻度が中国語母語話者よりはるかに低いことも、この推測を支持する。以下、日本語母語話者による結果補語の脱落の誤用例挙げて説明する。

- (10) 如果你住在城市的话，你会比较容易<誤：找→正：找到>工作。(2013_068_TUFS_CH_077)

(例文(4)を再録する)

→前項動詞の語彙的アスペクトの完結性の意味の理解ができないため、誤用を引き起こす。

- (11) 大家应该理解他的好心态，撑<誤：住→正：过>那个困难。(2014_134_TUFS_CH_099)

→前項動詞と結果補語と語彙的選択制限の理解ができないため、誤用を引き起こす。

- (12) 柏是先发芽然后古叶才<誤：落→正：落掉>的树。(2013_158_TUFS_CH_093)

→前項動詞の語彙的アスペクトの完結性の意味の理解ができないため、誤用を引き起こす。

(9a②)の「～成」、「～完」、「～开」等は、従来の研究ではphase markerとも呼ばれ(湯(1991))、語彙の意味がほとんどなくなり、事象の「完了、完成」と

いう結果状態を表し、アスペクト的機能を担っている。このように文法化が進んだものは、前項動詞との結合において選択制限がゆるやかで、様々な前項動詞と結合でき、強い生産性を持つ（沈阳・玄珏（2011:11））。

日本語にも、同様に、「～終わる／終える」「～始める」のような統語的複合動詞や、完了の「～上がる／上げる」開始相の「～出す」のようなアスペクト複合動詞も存在している。

（9a②）の結果補語は、学習者にとって、まず前項動詞との意味制限がゆるやかなため、習得するには（9a①）のように負担がかからず、習得しやすいと推測される。また、日本語にも相当するものが存在し、母語より推測できる。データをみると、日本語母語学習者による「～完」の出現は18例、中国語母語話者コーパスにおける16例の出現よりやや高い。

「～成」については59例、中国語母語話者の260例よりはかなり低いが、英語母語話者の53例の出現と比べると、大抵同じ習得レベルにあると想定でき、こうした非用は母語からの干渉ではないと考えられる。ただ、「～开」の出現率は低いことは興味深い。

（9a③）の「～好」「～坏」は、アスペクトを表すほか、結果状態に対する評価も含まれている。日本語の「～上がる／上げる」複合動詞も「完了・完成」の意味もち（姫野（1999））、かつ結果に対する評価の意味をもっている（佐野（2017））。ただ、「～上がる／上げる」複合動詞における評価の意味は、産出物に対する客観的な評価である。一方（9a③）の結果補語における評価は主観的な評価である。

（13）我们必须先自己<誤：学习→正：学习好>基本的语法和词汇。（2014_079_TUFS_CH_117）

学習結果に対して主観的な評価を与える。

（14）我们约定<誤：了→正：好>年末再去那个小酒店。（2014_123_TUFS_CH_068）

合意に達したことに対して主観的な評価を与える。

（9b）の類は、語彙的意味を持つ、主語や目的語の

結果状態を表す。具体的な語彙的意味を持つため、前項動詞との結合制限がある。例えば、「～満」は「ある空間にあるものを（が）いっぱいにする（なる）」意味を表し、結合する前項動詞は、出現を表す動詞や使役移動動詞のようなものである。「～饱」は「お腹がいっぱいになる／充実している」の意味をもち、インプットの意味をもつ動詞と共起する。

（9b）類の結果補語からなる複合動詞は、前項動詞と補語との結合は、意味が透明的だが意味制限がかかっており、学習者はこのような意味制限や共起規則を学習できず、一語として記憶し、結果として以下のように補語の非用や意味的に誤った補語を用いていると推測される。この類の非用の現象は、英語母語話者学習者コーパスにも見られる。

（15）天黑后，会场都<誤：点→正：点满>了蜡烛。（2014_127_TUFS_CH_036）

空が暗くなったあと、会場中に、ろうそくが灯った。

（16）但是自己想走也走不了，以免两个人<誤：交错→正：走错>。（2014_031_TUFS_CH_113）

行こうと思うが、行けない。二人はすれ違うといけないから。

（17）但是我们不应该<誤：误解→正：弄错>大学生的本分。（2014_091_TUFS_CH_141）

ただ、私たちは大学生の本業を誤解すべきではない。

以上、中国語結果補語の性質の考察を通して、日本語母語話者による結果補語の誤用を分類し、その誤用が起こる要因を分析した。誤用の分類およびその要因を次頁表3のようにまとめておく。

3.2. 中国語の結果補語・日本語のアスペクト複合動詞の相違と統語構造の相関性

影山（2013）では、日本語の語彙的複合動詞の新体系として、後項動詞V2が項関係（格関係）を決定す

【表3】誤用分類および原因分析

分類		結果補語	習得率	誤用の原因
アスペクト類	意味希薄化したもの	～到、～掉、～住	最も低い	アスペクト意味以外に、元の動詞の意味および前項動詞との結合における規則なども理解する必要があり、学習に負担がかかる。
	文法化したもの	～成、～完、～开	やや低い	前項動詞との共起制限がゆるいため、推測による習得が可能。また日本語のアスペクト複合動詞にある程度で還元できる。
	評価も表すもの	～好、～坏	低い	主観的な評価というアスペクト以外の機能は日本語に対応するものがないため、習得率は低い
非アスペクト類		～错、～満	低い	前後動詞の結合が意味的に透明であるが、厳しい選択制限があり、習得するには一語として記憶するしかない。

るかどうかという意味・機能の基準により、「主題関係複合動詞」と「アスペクト複合動詞」の2つのタイプに分類している。影山（2013）によれば、アスペクト複合動詞は従来の分類における（18a）の補文関係と（18b）の副詞関係に対応し、項関係は基本的にV1によって決まり、V2は広い意味で語彙的アスペクトを表し、後ろから前へとV1を修飾し、V1が表す事象の在り方について意味を補足するものである。

- (18)a. 補文関係：V1という行為／出来事を(が)V2
見逃す、編み上がる、死に急ぐ、聞きもらす
b. 副詞的關係：V2が副詞的にV1の意味を補強
晴れ渡る（＝すっかり晴れる）、使い果たす
（＝全部使う）、居合わせる（＝たまたま同じ
場所にいる）（影山（2013: 6-7））

青木（2013）は、日本語のアスペクト複合動詞が、歴史的に、 $_{VP}[VP[項 + V1]V2]$ のように、V2の目的語補文がV2と複合することにより変遷してきたことを

示唆している。こうした日本語のアスペクト複合動詞の歴史的変遷は、日本語のSOVの統語構造が複合動詞の内部構造に反映され、前項動詞 $[_{VP}[項 + V1]]$ が、後項動詞V2の目的語節として機能するOV構造型複合動詞が卓越していることが、歴史的にも支持される（望月（2018:199）を参照）。

日本語と中国語における複合動詞の内部構造は、統語構造の反映である。蔣（1999）によると、現代中国語における（19a）（20a）のような結果複合動詞「V-C-O」は、歴史的に（19b）のように目的語が前項動詞V1の直後にくる「V1-O-V2」構造である「兼語式」、（20b）のような動詞の並列構造「V1-V2-O」である「連動式」から発展してきたものであると指摘している。

(19)a. 現代中国語 V-C-O

他赤手空拳地作战、折断气管、打断骨头。(CCL)
beat-break windpipe beat-break bone

b. 古代中国語 V1-O-V2

今当扞汝前两齿折。(贤愚经)
beat your front tooth break

(20)a. 現代中国語 V-C-O

扰乱公共秩序。(作例)

disturb-confused

b. 古代中国語 V1-V2-O

扰乱我同盟、倾覆我国家。(左传)

disturb confuse

(19b)の「連動式」は、「V1-V2-O」における元々能格動詞であるV2が使役他動詞用法が脱落し、非対格動詞となり、「V-C-O」のように定着されるようになっているという。(20b)の「兼語式」は使役構文や処置構文の出現に伴い、目的語がV2の直後に来るようになり、「V1-V2-O」を経て「V-C-O」となっているという。いずれのタイプにしても、結果状態を表すのがV2である。特に「V1-O-V2」構造から、V2が目的語の結果状態を叙述する機能を担うことになった。

望月(2018:199)によれば、日本語の複合動詞は、歴史的に、 $_{VP}[_{VP}[項 + V1]V2]$ のように、「(V2の目的語補文構造中のV1) + V2」の複合から形成される。一方、SVO語順の中国語においては、V1は目的語補文との複合動詞化が起らず、「結果構文のVC(=V1 + 結果補語)」構造からアスペクト複合動詞が形成されるという相違がある。中国語には、日本語のような目的語節を補文にとる「目的語補文」型複合動詞は存在せず、継続：V1することを{～まくる/～続ける}」「未遂：V1することを{～そこなう/～損じる/～そびれる/～しかねる/～遅れる/～忘れる}」「再試行：～直す」「相互行為：～合う」などのような複合動詞が存在しない。こうした違いは、中国語母語話者日本語学習者による日本語複合動詞の非用現象に繋がる(望月(2018:196-197))。また、結果補語の習得では「日本語に相当するものがあり、類推できる」ものは出現率が高く、「日本語には対応するものがなく、

類推不可」なものは出現率が低いという点が、統語構造における相違が習得に影響を及ぼすという母語干渉が存在することを検証した。

4. おわりに

本稿は、日本語母語話者中国語学習者コーパスと中国語母語話者均衡コーパスの比較調査を通して、日本人母語話者学習者による中国語結果補語の産出は全体的に少なく、習得率が低いことがわかった。日本人母語話者学習者による非用・誤用の要因は、1) アスペクトの機能を表す補語について、補語が完全に文法化したか、していないかによって、習得率に違いが見られる。文法化が進んだものは、前項動詞との結合制限がゆるやかである。また、日本語にも対応表現があるため、学習者にとって習得しやすい。一方で、語彙の意味がまだ残っている結果補語は、アスペクトの意味以外に、前後動詞における結合制限を理解する必要もあるため、習得が困難であると推測される。2) アスペクトの機能がない補語については、前後動詞の結合に厳しい制限がかかっており、日本語母語話者にとっても、英語母語話者にとっても、習得が困難であり、使用頻度が低くなる。

一方、英語母語話者による結果補語「～好」「～完」の過剰使用は、日本語母語話者による過少使用と対照的な現象となり、異なる母語話者では、異なる誤用の傾向が生み出されることがわかる。中国語教育における結果補語の教育は、英語や日本語では、複雑述語や結果補語に対応しにくいいため、学習が困難である。教育においては、日本語・中国語との対照を試みながら、生産的に語彙を生み出すシステムを教授することが必要である。

注

- 1 北京大学中文系・早稲田大学砂岡和子研究室が、東京外国語大学望月圭子研究室の協力も得て開発公開したもので、以下のサイトで公開されている。<http://ccl.pku.edu.cn/vc/default.asp>
- 2 補語が機能や意味によって、結果補語、方向補語、可能補語、程度補語、介補語等に分類できる。結果補語は動作や行為の結果を表す。方向補語は動作や行為の方向を表す。可能補語とは、結果補語や方向補語を持つ動補構造に「得」や「不」を挿入し、補語の表す結果が実現可能かどうかを表すものである。程度補語は動作や行為の程度等を表す。介詞補語とは、例えば「他生于1949年」「话说到点子上了」のように、「動詞＋介詞＋目的語」の構造の中で、動作や行為の時間・場所を表すものである。
- 3 中国語母語話者の頻度数については、中国教育部语言文字应用研究所で公開している<現代漢語語料庫検索> <http://www.cncorpus.org/index.aspx> で検索を行った。
- 4 「日本語母語話者と中国語母語話者は、結果補語の産出が同じ」という帰無仮説に対して、p値が0.05以下であれば、帰無仮説が破棄され、両者の調整頻度は有意に異なる。
- 5 「英語母語話者と中国語母語話者は、結果補語の産出が同じ」という帰無仮説に対して、p値が0.05以下であれば、帰無仮説が破棄され、両者の調整頻度は有意に異なる。
- 6 日本語母語話者中国語作文データを収集する前に、データ提供者にアンケートを記入してもらった。アンケートの質問項目は、「母語」「学習歴」「日常で使用する言語」などがある。

使用コーパス

東京外国語大学日本語母語話者中国語学習者作文コーパス及び誤用辞典 http://ngc2068.tufs.ac.jp/corpus_ch/

中国語動詞補語用法オンライン辞書 <http://ccl.pku.edu.cn/vc/default.asp>

現代漢語語料庫検索 <http://www.cncorpus.org/index.aspx>

北京大学 CCL 語料庫 http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus

参考文献

- 青木博史 2013「複合動詞の歴史的変化」影山太郎編『複合動詞研究の最先端－謎の解明にむけて』 pp. 215-241. ひつじ書房.
- 蔣紹愚 1999 <漢語動結式產生的時代>《國學研究》第6卷，北京大學出版社.
- Heine, Bernd and Tania Kuteva 2002 *World Lexicon of Grammaticalization*. Cambridge University Press.
- 姫野昌子 1999『複合動詞の構造と意味構造』ひつじ書房.
- 影山太郎 2013「語彙的複合動詞の新体系～その理論的・応用的意味合い～」『複合動詞研究の最先端－謎の解明にむけて』ひつじ書房.
- 呂文華 1999《對外漢語教學語法體系研究》北京語言文化大學出版社.
- 望月圭子 2018「日本語教育における複合動詞の習得～英語の句動詞・中国語の補語との比較から～」『東京外国語大学論集』第96号，pp. 183-204.
- 佐野洋 2017『多言語による複合動詞翻訳プロジェクト』東京外国語大学国際日本研究センター国際日本語教育部門主催.
- 沈阳，玄玥 2011 <“完結短語”及漢語結果補語的語法化和完成體標記的演變過程>《漢語學習》第1期，pp. 3-14.
- 玉岡賀津雄・初相娟 2013「中国人日本語学習者の語彙的複合動詞の習得に影響する要因」影山太郎編『複合動詞研究の最先端－謎の解明にむけて』 pp. 413-430. ひつじ書房.
- 湯廷池 1991「漢語語法的「併入現象」(上)」『清華學報』第21期，pp. 1-63.